

# 旭川未来会議 2030

福祉分野テーマ

## 2030年の福祉分野のあるべき姿

～ 「誰もがその人らしく、普段の暮らしの中で『しあわせに生きる（福祉）』  
ためのあたたかい『つながり』が育まれるまち」を目指して ～

2022年11月1日  
福祉分野

## 旭川市の福祉を取り巻く現状について

- 人口：326,057人 (R4.4) → 302,619人 (R12=2030年【推計値】)
- 総世帯数：155,625世帯 【単独世帯数：61,540世帯】  
単独世帯率：39.5% 【※参考 全国平均 38.1%】 (R2国勢調査より)
- 町内会加入率：56.0% (R4.4)

### 高齢者 (R3.10)

<65歳以上人口 (高齢化率) >  
→113,050人 (34.4%)  
【高齢化率 全国平均 28.9%】

### 障害者手帳所持者 (R4.3)

24,749人

[内訳] 身体 16,761人,  
知的 4,590人, 精神 3,398人

### 民生委員児童委員 766人 (R4.3)

<平均年齢>  
男性 70.6歳, 女性 67.9歳

### ※参考 引きこもり状態にあるもの

【内閣府調査 (H27・H30)】

15歳～64歳の3.02%  
→R4.4本市人口換算 = 2,681人

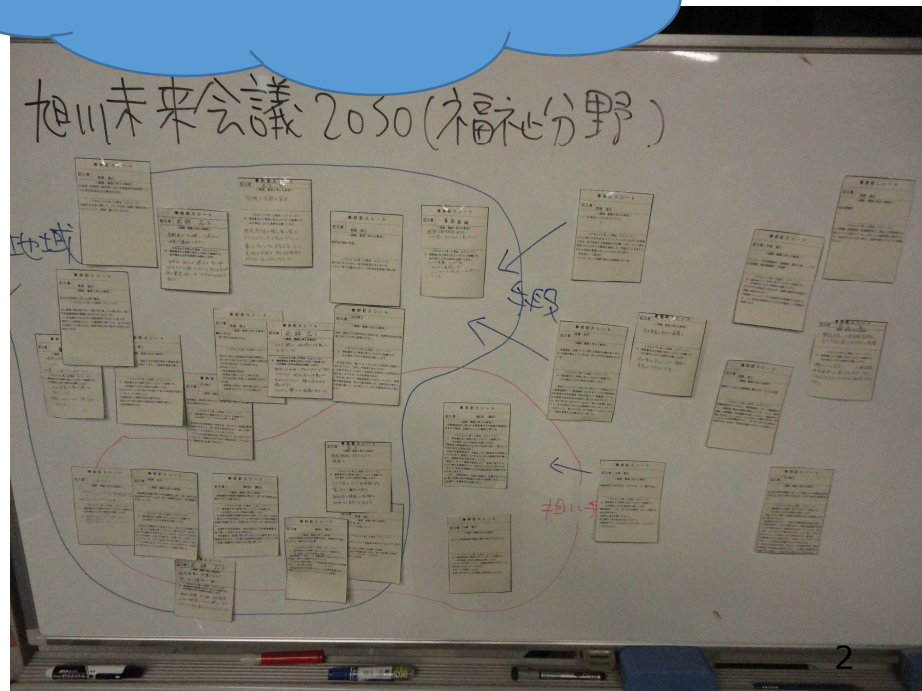
# 第1回分野別会議（課題に係る意見交換を実施）

障がいのある当事者同士で  
支え合う場が少ない



個人や世帯が抱える  
福祉の課題が複雑・複合化し  
既存の相談体制では  
対応が難しくなっている

世代間ギャップ等の理由で、  
ボランティアや地域福祉活動の  
停滞・硬直化が見られる



# 個々の課題の分類・整理を実施

	中分類	大分類
課題	住民の孤立化が進んでいる	【繋がり希薄】 地域住民や当事者同士のつながりが希薄になってきている
課題	当事者同士のつながりの場が少ない	
課題	人口減少による影響	
課題	コロナ禍による影響	
	ボランティアや地域福祉の担い手が固定化している	【担い手不足】 地域福祉活動の担い手が不足している
課題	地域（福祉）活動に関する若い世代の参加意欲が乏しい	
課題	若い世代の地域（福祉）活動への参加には制約が多い	
課題	福祉に関する住民理解の不足や世代間相互理解の不一致	
課題	地縁組織等における機能や参加者に重複が見られる	【不十分な統合的支援体制】 地域住民の暮らしを統合的に支援する体制が構築されていない
課題	複雑化・複合化した課題を抱える個人や世帯が増えている	
課題	既存の相談機関の体制では諸課題への対応が難しい	
課題	公的な福祉サービスの人手不足及びそれに伴う支援の質の担保に課題がある	

…全49件

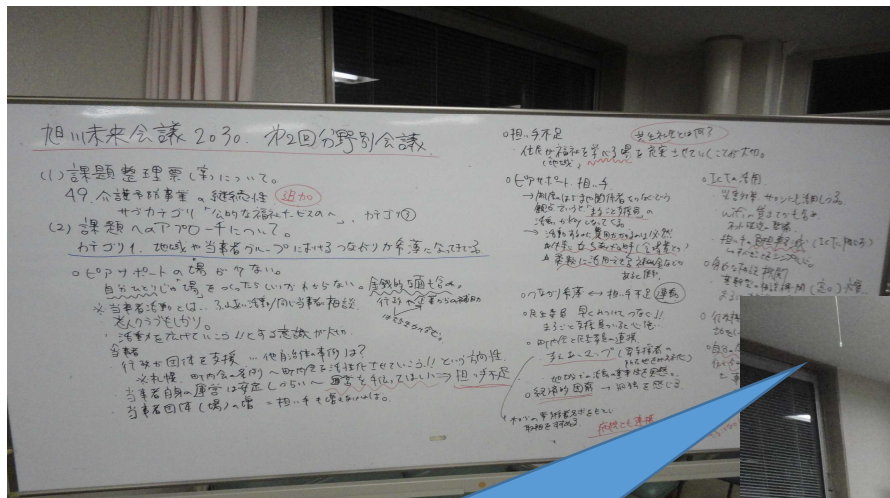
## 福祉分野が考える2030年の旭川のあるべき姿

「誰もがその人らしく、普段の暮らしの中で  
『しあわせに生きる（福祉）』ための  
あたたかい『つながり』が育まれるまち」

### あるべき姿を考えた理由

- 個々で大切にしたいもの（幸せ・豊かなど）は異なるが、みんなが繋がり、その支え合いの中から、それらを互いに実現していくことをイメージした
- 旭川市は医療・福祉の社会資源が豊富であることは強みであり、その良さを生かしつつ、行政と地域住民が一緒に、みんなが抱える課題を解決していければと考えた
- いま支援を必要としている人を含め多くの人にとって、将来に希望がもてる言葉や表現で、あるべき姿を示したいと考えた
- 地域単位の繋がりや活動が充実することで、まち全体の福祉向上に繋がると考える<sub>4</sub>

# 第2回分野別会議（課題解決に向けたアプローチを協議）



課題

繋がりの希薄



従来の地域活動だけでなく、みんなが地域にとって必要な取組を考え活動することにより、繋がりの必要性が実感できるかも

課題

不十分な統合的支援体制



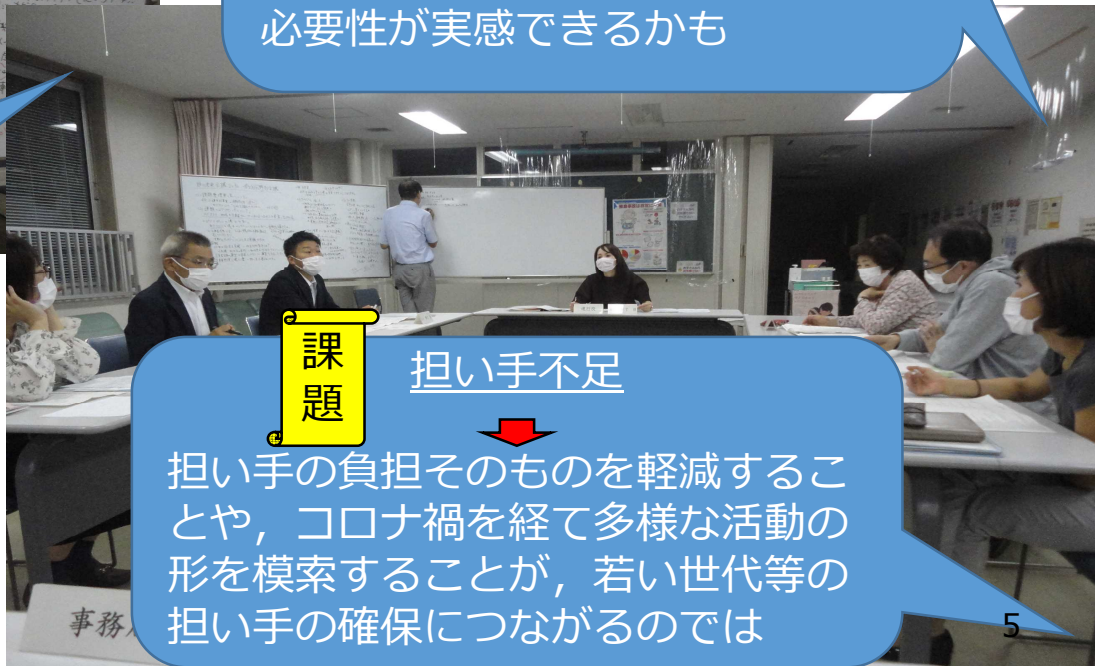
「地域まるごと支援員」の役割を広く浸透させることが必要／市と関係機関が、住民からの相談を適切に繋ぎ合うことが不可欠

課題

担い手不足



担い手の負担そのものを軽減することや、コロナ禍を経て多様な活動の形を模索することが、若い世代等の担い手の確保につながるのでは



課題  
再掲

課題解決に向けたアプローチ方法【意見総数：41件】

課題・アプローチを  
踏まえた取組の方針

繋がり  
の希薄

町内会の意義等を条例化して広く周知を行い、活動の活性化を図る
既存の枠組にとらわれず、新しい町内会活動や近隣との助け合いの在り方について世代間で意見交換できる機会を設ける
地域課題の取組を通じて住民の連帯意識が醸成された事例（支え合いマップ）を広め、各地域においてもそれぞれの取組を実施する
子どもから大人まで地域福祉や地域共生社会を学ぶ場を設ける

「助けて」と言える・「なんもなんも」と助け合える居心地の良いつながりを地域の中で醸成していく

担い手  
不足

当事者団体・活動への人的・金銭的なサポートを充実する
I C Tを活用し、地域福祉活動の事務的負担の軽減や拡充を図る
地縁組織間で重複する役割機能を整理し、有機的連帯への再編を図る

『これまで』を大切にしつつ『これから』の持続可能な地域福祉の在り方を多世代で柔軟に学び・考え・活動する

不十分な  
統合的  
支援体制

障害者が身近に相談できる窓口を拡充するとともに、地域まるごと支援員について地域住民レベルまで浸透させる
行政においても、専門職員の配置や基礎的な相談技術や各福祉領域の知識・関係機関連携に係る研修等の実施により総合相談体制の充実を図る
自主化に向けた動きのある認知症予防・体操教室について、今後も専門職の関わりを一定程度維持する
在宅ヘルパー不足の解消等のため、有料老人ホームの施設数を需要に応じた供給量となるよう検討を行う

豊富な社会資源を活用し、行政と住民が一体となり、個人や地域が抱える困りごとをしっかりと受けとめる支援体制を築いていく

# 未来会議2030に参加した感想・意見

## 第3回分野別会議



- 協議時間・回数が少ない→  
継続的な議論があると良い  
(児童や経済困窮分野からの  
参加もあと良い)
- 福祉分野の裾野は非常に広く、  
ポイントの集約や共通点を見つ  
ける難しさがあった
- 多くの気づきがあり、各分野  
の視点でリアルな課題を共有し、  
解決に向けた取組等を検討でき  
て良かった
- 異なる立場で福祉向上を目指  
す皆さんの思いに触れ、前向き  
な気持ちになれた
- 協議内容を地域福祉計画や具  
体的な取組に是非反映させてほ  
しい。



## 福祉分野参加者（敬称略）

石川 雅之（公募）	高橋 通江（永山地域包括支援センター）
神田 典行（旭川市障害者連絡協議会）	高森 崇（旭川社会福祉施設協議会）
五所 卓子（旭川大学保健福祉学部）	玉田 昌嗣（旭川市老人クラブ連合会）
高木 恵（公募）	中島 寛之（旭川市自立支援協議会）
高橋 糸子（旭川市社会福祉協議会）	飛驒 晶子（旭川市民生委員児童委員連絡協議会）

## 分野別会議協議経過

日付	内容
7月25日	第1回会議（旭川市の福祉分野における課題に関する協議）
9月14日	第2回会議（課題の整理及びアプローチに関する協議）
10月12日	第3回会議（これまでの協議の総括・報告会発表内容に関する協議）